Funded by
European Union
Humanitarian Aid

危機状況下にある思春期の女の子たち：

中米とメキシコにおける移住の経験

要約

本レポートレポートの写真は、調査参加者ではない。
本レポートレポート内の写真はすべて、プラン・インターナショナルのプロジェクトに参加している女の子や思春期の若者のものであり、本レポートでの使用の許諾を得ている。レポートで使用されている写真の被写体になっている人物は、何らかの暴力や虐待の被害者ではない。

なぜこのレポートが重要なのか

本調査は、プラン・インターナショナルの「Girls in Crisis」に関する研究グループによって実施され、さまざまな緊急事態や危機的状況における思春期の女の子や女性の体験を分析している。本調査を通じて、危機が生じたとき、外的要因は思春期の若者の成長と発達の過程に重要な影響を及ぼすが、こうした体験の影響は、女の子や女性によって異なることが確認された。

体系化された暴力の地域的背景の中で、思春期の若者やユース女性が日常生活のあらゆる領域（コミュニティ、家族、パートナー、性など）で経験する、ジェンダーや年齢を理由とする暴力を特に考慮する必要がある。それが移住の理由となる出身国で起きた暴力であれ、家を離れることを強いられた場合に移住の旅の中で経験する暴力であれ、同様である。

調査目的

この調査の主な目的は、中央米地域（エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス）とメキシコの北部三角地帯の思春期の若者の教育に関連する強制移住[1]や社会的またはジェンダーに基づく暴力のいくつかの影響の分析に基づいて、提言書を作成することである。

[1] 人の移動 - 地理的な人の移動に関するあらゆる形態を示す総称。移住 - 国境を越えて、または国内で、通常の居住地以外の場所に人が移動すること。出典：移民に関するOIM用語集（2019年）。.

調査方法

情報は、定性的および定量的な方法論（対面およびデジタル）を用いて収集された。中米地域（エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス）とメキシコで、267人の思春期の女の子と男の子、8世帯、調査対象者 14人の平均値から得た証言と経験に基づく。

本レポートは、思春期の男女が性別によりどのように異なる経験をするのか、ジェンダー視点から分析するために、男女両方を調査対象として策定された。本レポートは、これまでの「Girls in Crisis」のレポートと同じく、移住が思春期の若者に与える特定の影響に焦点を当てている。

本調査に参加する思春期の若者たちのプロフィール

「移動可能な状況」、つまり、移住を経験しているか、移住する予定がある、15～19歳の思春期の若者（調査方法の観点から年齢幅を広げたメキシコの場合を除く）。すべての分析対象国、特にグアテマラとメキシコでは、中米と南米両方から、思春期の若者が参加した。

主な調査結果

39% の調査対象の思春期の若者が、社会やコミュニティでの暴力を、自身のコミュニティにおける日常的な問題であると認識している。

29%の調査対象の思春期の若者が、男性は特に他の男性から身体的暴力（性的なものではない）を受けると考え、28% が、男性は公共空間 で強盗のような暴力を受けると考えている。

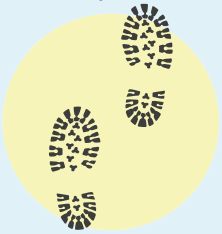
およそ3人に1人の調査対象の思春期の若者が、女性は特に 家庭で知人や家族から身体的・性的な暴力を受けていると考えている。

10人中 4人の調査対象の思春期の若者 は、さまざまな形態の暴力が、一般人よりも思春期の若者に影響を与えると信じている。また、 14% が、さまざまな形態の暴力は、男性か女性かによって異なる影響を与えると考えている。

思春期の女の子は、他の女性に対する暴力を知っていると報告する確率が、調査対象の他の思春期の人々に比べて最大で 4 倍も高い。

22% の調査対象の思春期の若者が、社会的暴力とジェンダーに基づく暴力が、中途退学率の主な要因であると考えている。

1 人に 5人 の調査対象の思春期の若者が、性暴力やジェンダーに基づく暴力が移住の理由だと考えている。



1 人に 3人 の調査対象の思春期の若者は、ジェンダーが暴力による移住の決定要因になると考えている。

主な調査結果

中米およびメキシコ地域における思春期の若者およびユースに対する暴力

思春期の女の子やユース女性は、ジェンダーや年齢を理由に暴力にさらされている。これは地域や国際レベルでの複数の分析から得られた数値やデータが示しているとおりだ。暴力は、思春期の若者のコミュニティでの生活に影響を与え、居住地域や国から移住する原因の一つとなっている。

4カ国で調査対象となった10代の女の子とユース女性は、さまざまな形態の暴力が自身が住むコミュニティにおける主要な課題であると考えており、39.4%の若者が社会的または地域的な暴力を日々の課題として認識している。

彼らによると、男性と女性が直面する暴力の種類には違いがあるという。調査対象となった10代の女の子やユース女性の約13%が、性暴力は自分たちの環境における日常的な問題だと考えている。

- ユース男性が受ける被害は、主に他の男性からの身体的暴力（性的要素を含まない）（28.7%）、強盗などの公共空間での暴力（27.7%）であると回答している。
- 一方、女性は、自宅や知人宅、家庭での身体的・性暴力（28.7%）、コミュニティ・公共空間での性暴力（23.4%）に直面している。

その他、調査の関連データとして：

- 調査対象の思春期の若者の10人に4人は、さまざまな形態の暴力が、一般の人々よりも思春期の若者に影響を与えると考えている。
- 14.9%が、さまざまな形態の暴力は、女性と男性に異なる影響を与えると考える。
- 思春期の女性は、他の女性から聞いた暴力の経験を最大4倍知っていると報告している。特に、21.3%が自身に対する社会的暴力を強調している。

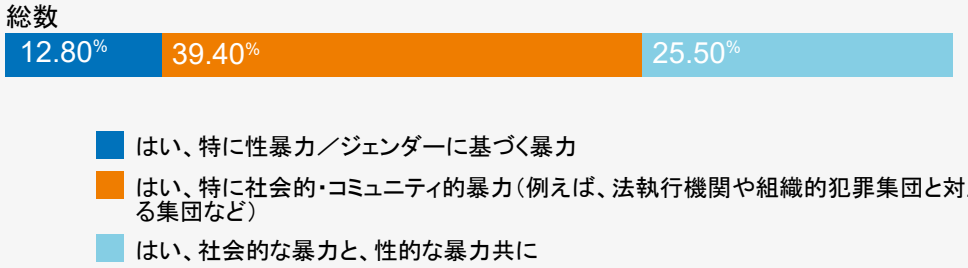
思春期の若者に対する暴力やその他のジェンダー要因が教育にもたらす影響

学校環境でも起こる安全性の欠如や絶え間ない虐待は、しばしば中途退学の原因となり、国内避難の原因となっている。

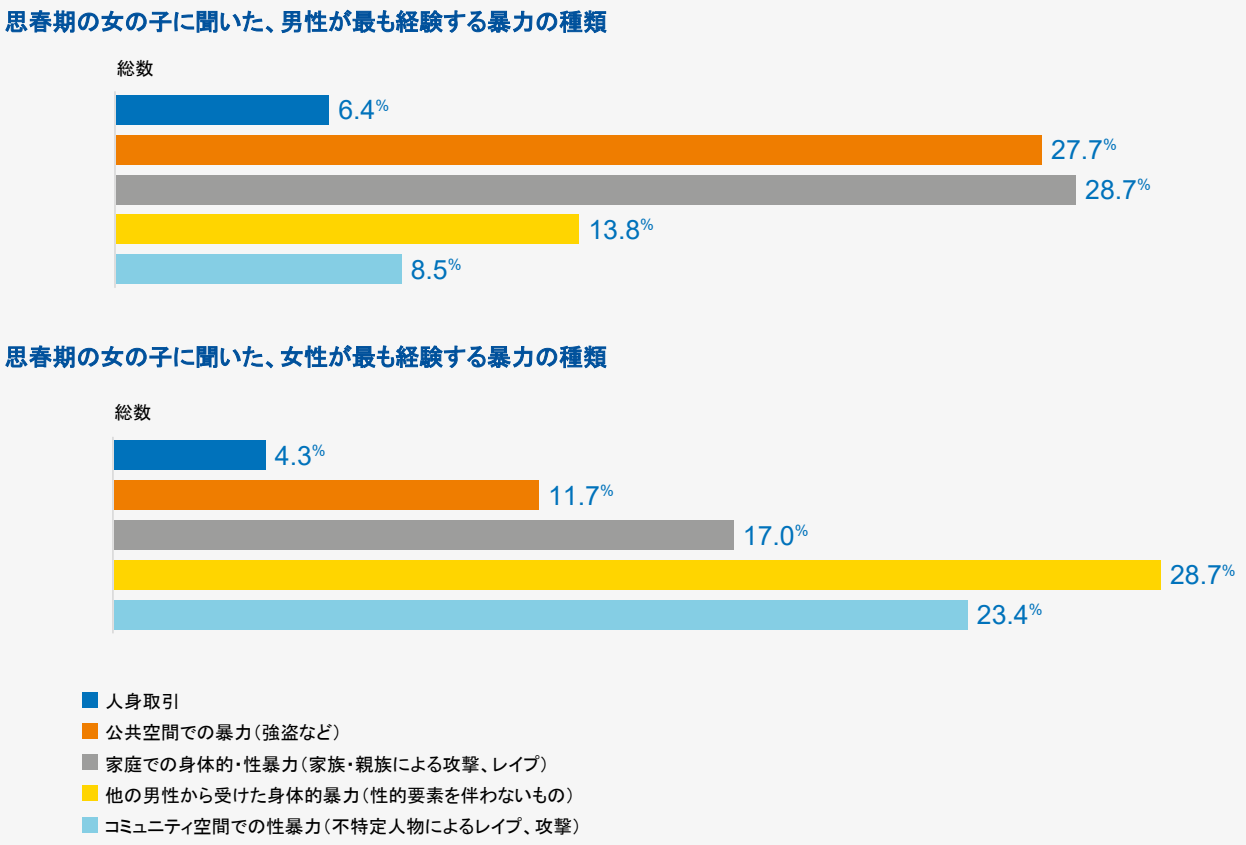
調査対象の思春期の若者のうち22%が、虐待とジェンダーに基づく暴力が同様に学校中退を引き起こす強い要因であると考えている。

グラフ1：コミュニティにおける日常的な問題としての暴力

暴力をコミュニティの日常的な問題として捉えている思春期の女の子と女性の調査対象者の総数



グラフ2：男女がコミュニティで経験した暴力



「女性に対する性暴力も中途退学に至る理由のひとつです。学校では女性に対する暴力が多く、女の子はこうした状況について沈黙するという文化があるため、そのまま学校に行かなくなってしまいます。家庭内暴力によっても、女の子は情動的になり、学校に行かなくなったりもします。」

情報提供者の一人である成人女性、エルサルバドル

「学校でトラブルがあり、怖くて通えなくなりました。私を脅したり、殴ったりする女の子たちがいたので、怖くて [...] 殴られたり、いろいろされたので、親に『授業がない』言いました。」

エルサルバドル出身の思春期の女の子（16歳）、グアテマラ

ほとんどの思春期の若者は、学校は、安全な環境であると認識している。回答者の59.6%が、「学校は安全だと感じる空間だ」と考えている。しかし、調査対象の思春期の若者の約3人に1人（27.7%）が、「学校は不安な空間である」と回答している。インタビューでは、回答者は、学校や通学途中で受けた身体的、感情的、性的、心理的暴力を、忘れられないと打ち明けた。こうした状況は、特に学校環境に予防や保護の仕組みがない場合、ユースに深刻な影響を及ぼす。

「大学内は怖くありませんが、街から離れているので歩く必要があります。街全体は暗く、誰もいません。外は安全ではないのです。」

ホンジュラスでインタビューした思春期の女の子（16歳）

その他、家庭環境や家族内で経験した妊娠や暴力、扶養家族の世話に伴うジェンダーの義務なども、思春期の若者の教育継続を左右する重要な要因である。

「思春期の女の子が妊娠すると、家を出てしまったり、学校にいたくないという理由で、勉強を続けることができなくなる。」

グアテマラでインタビューしたベネズエラの思春期の女の子（18歳）

「父が病気で、私が世話をしなければならないから、勉強を続けるのが難しい。」

思春期の女の子(15歳)、エルサルバドルでインタビュー。

退去と移住の原因である暴力と機会の欠如

貧困、構造的な暴力、家庭内やコミュニティ、教育現場での直接的な暴力に晒される中で、思春期の若者にとって移住は、より良い未来を手に入れることができる、実質的な唯一の選択肢である。

仕事を探したり、より良い条件の雇用環境に移ったり、教育や訓練を継続するためというのが、この地域の女性が移住する主な理由であると、思春期の若者たちは報告されている。

調査対象の思春期の若者の45.7%が移住の理由として働き先がないことを挙げており、次いで教育を受けることが難しい（11.7%）、安全（暴力）の欠如（7.4%）が続く。

「いいえ、私の場合、暴力が理由ではありません。私たちが家を出たのは、母がより良い雇用機会を得られる可能性があったからです。」

ニカラグア出身の思春期の女の子

調査対象者のうち、5人に1人（19.1%）は、性・ジェンダーに基づく暴力が移住の理由だと考えており、29.8%は「ジェンダーによって」暴力が移住の理由になり得ると考えている。

「父は暴力的で、いつも私たちを殴り、またある時は妹と私を虐待していました。だから、二度と同じことが起きないように、私たちは家を出たんです。他の兄妹や叔母と一緒に出たんですけど、今はこっちの方が平和でいい感じです。」

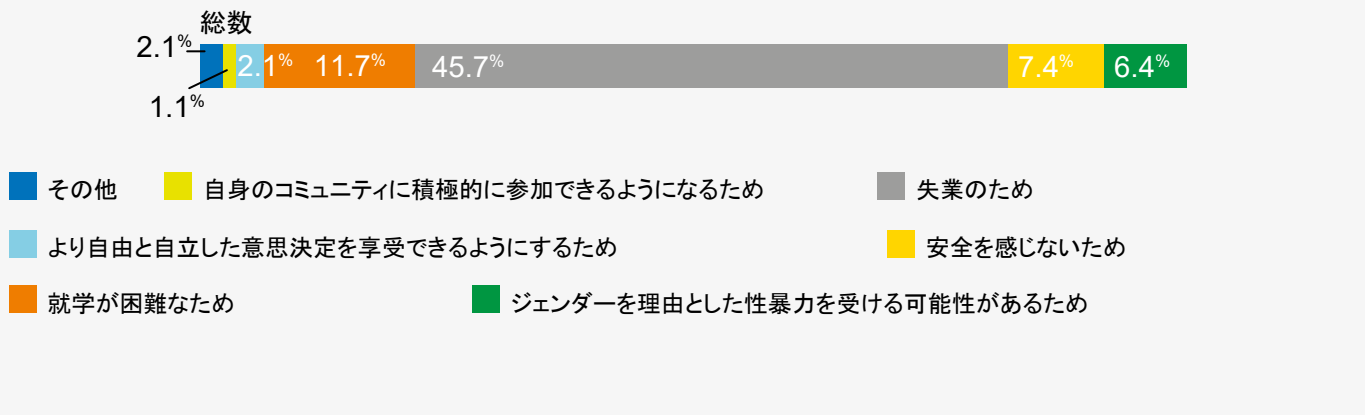
メキシコでインタビューしたホンジュラスの思春期の女の子。

「私や姉妹は、人々は暴力的な状況や、家庭やコミュニティで虐待を受けているために移住することがあると考えてます。私たちの国は、扉は閉ざされており、何のチャンスもありません。私たちの国にあるのは友人や家族であり、それは移住するときに置いていくものなのです。」

思春期の女の子（18歳）、エルサルバドル

この調査でインタビューした女性の多くは、暴力を退去の要因として認識していない。多くの場合、人びとは移住の中継地で、報復を恐れながら証言をする。暴力の加害者が移住ルートに出現することはよくあることだからだ。

グラフ3：インタビューした思春期の女の子が移住した理由



4カ国でインタビューした若者の中には、暴力（極度の場合もある）の中で、国を離れて国境を越えた移住の旅に出ることを決める前に、家族が国内強制移住を選択したケースもあった。

相談者によると、移住する際の主な目的地は、以前と変わらずアメリカ（36.2%）だった。

「私たちは疲れていました。2週間も旅をしていて、たいていは路上で生活していました。いたるところに検問があって、そのたびにお金を払わなければなりませんでした。」

メキシコでインタビューしたニカラグアの青少年（16歳）

移住の旅：移動中の暴力と教育へのアクセス

思春期の若者とのインタビューやディスカッション・グループによれば、思春期の若者が出身国で経験する暴力は、移動中に増加し、変容していくという。性暴力、人身取引ネットワークに陥る危険、恐喝の被害者になる危険は増大する。そして、こうした文脈では、これらは非常に頻繁に強奪の手段となっている。

インタビューやディスカッション・グループで集められた報告によれば、移動ルート全体において、若者は身体的、性的、心理的暴力のリスクが最も高いグループの一つと考えられる。特に危険なのは、特定の国境地帯である。

「ダリエンは地獄のようです。5日間もジャングルを歩き、背中まで泥だらけで、いつも虫に刺され、食べ物もなく、とても怖いです。レイプのことは知っていましたが、幸いなことに、私たちの身には起こりませんでした。私たちの前にいた人たちがレイプされたことは知っていますが、私たちには起こらなかったです。男でも女でも、行く先々でレイプされると聞きました」。

メキシコで取材したベネズエラの青年（15歳）。

避難した国でも、自国と変わらず 、思春期の若者とその母親は、移動中の性暴力を避けるために、特に体を隠したり、男性のふりをするといった保護戦略をとっている。

「母は私に何か起きないように、ずっと男の子の服を着せていました。ここでは用事があって外出するとき、危険を感じます。」

メキシコで取材したベネズエラ出身の思春期の少女（15歳）

また、若者が避難所で安全でないことを経験するのはよくあることだ。

「ここ（避難所）では、男性が女性を虐待しようとするケースもあります。以前、私の身に起こったことですが、私が報告したところ、彼は追い出されました。」

メキシコでインタビューに答えたニカラグアの思春期の女の子（16歳）、メキシコ

移動中に経験するさまざまな形態の暴力に加え、インタビューした思春期の若者は、移動中に性と生殖に関する権利がどのように侵害されたかを語っている。月経や妊娠中の移動には、さらなるリスクや困難が伴い、ハイリスク妊娠の女性や移動中に中絶を経験した女性のように、女性の命を脅かす可能性もある。

「私には、生理が来てもナプキンがないんです。」

グアテマラでインタビューに答えたベネズエラ出身の思春期の女の子（19歳）

「生理痛でもジャングルを歩かなければならない、妊婦が中絶に苦しむ（...）など、私たちに起きているすべてのことのために、母が苦しんでいるのを見ること。」

グアテマラでインタビューに答えたベネズエラ出身の思春期の女の子（15歳）

教育も、移動の最中に奪われる権利のひとつだ。一般的に、ユースは自身の人生において教育が非常に重要であることは認識しているが、インタビューでは、経済的状況により仕事を探さなければならないため、最も有効な選択肢ではないことが多いことを認識している。

「そう、私は働かなければならない…学校は私のためにならないそんなことでは家族を助けられないと思うんです。働けばもっと力になれる。」

ホンジュラスでインタビューした思春期の少女（16歳）。

証言によると、移住によって得られる教育の機会には希望があるが、移動中は教育が無期限に中断され、移住する学生たちの教育へのアクセスは、書類やや法的手続きに関わる官僚的困難な手続きにより阻害される。

「人々は生活環境を改善するため、高収入の仕事を見つけるため、またより良い教育を受けるために移住します。アメリカへの移住は、勉強やキャリアをスタートさせるための絶好の機会です。多くのユースはより良い教育を受けるために、多くの大人はここエルサルバドルに残る家族を助けるために移住するのです…多くの親が子どもをよりよい生活を送らせるために連れて行くのです。

エルサルバドルでインタビューに答えた思春期の女の子（14歳）

「私たちは不法滞在者で、メキシコ人ではないので、ここの学校には通えないし、学用品を買うお金もありません。父は働いていますが、稼いだお金は私たちの学費ではなく、食費とここを出るための費用として、節約しています」

ニカラグアの思春期の女の子（15歳）、メキシコ

訪問した保護施設の中には、代替教育を提供したり、幼年期の子どもに非公式な教育を提供しているところもあるが、思春期の若者たちにはない。通常彼らには、知識を深めるための余暇活動が提供されるが、思春期の若者にはあまり楽しいとは思われないようである。この意味で、中継地で実際に教育の機会を提供するプログラムは、本調査では確認されなかった。

「保護施設にある学校は思春期の若者向けではなく、小さな子ども向けです。彼らはゲームをしたり、歌を歌ったり、そんなことばかりしています。私たちには、何もありません。」

グアテマラでインタビューに答えたホンジュラスの思春期の女の子（15歳）

思春期の若者が帰国後、正規の教育課程に復帰できる確率は非常に低い。教育へのアクセスに関する法規則はあるものの、公共政策にこのような移住先から帰国した集団が含まれない傾向があり、含まれたとしても、ユースの状態や心理社会的観点を広く考慮した枠組みの中で彼らを統合するための情報がまだ不足している。

「ここでは教育システムへの復帰することは認められており、帰国した人は教育課程に復帰することは可能です。しかし、実際には、心理社会的アプローチや統合的アプローチがないため、そうはいきません。移住先から戻ってきた家族に対して、永続的な解決策を提供するために、彼らと協力することが必要なのです。」

エルサルバドルでインタビューした情報提供者の男性

結論

地域的な観点からの分析では、教育と、女の子や思春期の若者が直面する暴力の状況、そして移住の間には重要な関連性が見られる。4カ国でインタビューした思春期の若者は、ジェンダーや年齢による不平等な状況の中で生活しており、その不平等な状況が機会の欠如や暴力となって現れ、彼らの教育や保護を妨げ、しばしば移住に追い込まれる。

さまざまな種類の暴力（家族、コミュニティ、社会、学校環境）が、彼らの生活や、他国への移動においても常に存在する。調査対象となった思春期の若者のうち39.4%が、社会的暴力やコミュニティにおける暴力は自分たちが暮らすコミュニティでよくある問題だと考えている。

ジェンダーに基づく暴力に対する認識については、28.7%の思春期の若者が、家庭での性暴力は女性が受けることが多く、男性は他の男性からの身体的暴力（性的ではないもの）をより多く受けると考えている（28.7%）。また、29.8%が、暴力が原因で移住を決断する際に、ジェンダーが決定要因になると考えている。

思春期の若者を取り巻く暴力の文化は、彼らに影響を与える。40.4%が、性暴力とジェンダーに基づく暴力、そしてコミュニティにおける暴力が、思春期の若者に極めて影響を与える、つまり彼らは常にリスクにさらされていると考えている。

調査対象となった思春期の若者の約22%が、さまざまな種類の暴力が中途退学の理由になっていると考えている。家事や妊娠などのジェンダー規範も、学業継続に影響を与える要因となっている。

十代の若者は、理想的には教育が自身の生活を向上させるということを理解している。特に、暴力が絶えない環境にある場合、彼らは学校を社会的交流と安全の空間として語る。教育施設を「暴力が起こりうる場所」とし表現されることもあるが、思春期の若者たちには、教育施設は、自宅や近所、コミュニティなど、他の暴力的な空間と比べると、安全だと考えている。

思春期の若者とその家族が選択を余儀なくされる移住の道は、彼らの教育を中断させ、出身国ですでに経験している暴力のリスクを増大させる。これに加えて、彼らが経験する不平等やジェンダーに基づく暴力は、貧困にあえぐ移住者であることも要因となっている。

このことから、暴力がいかに当たり前なこととして受け入れられ、また、中米・メキシコ地域の危機状況下にある思春期の女の子や女性の生活の各領域（安全、家族・社会生活、教育）に浸透しているかを理解することができる。

提言

主要な意思決定者に向けて:

a) 教育面:

- 教育を思春期の若者の基本的な権利であることを理解した上で、包括的かつ抱摂的な教育を実施すること
- 性教育とリプロダクティブ・ライツを教育カリキュラムに組み込むとともに、ジェンダーに基づく暴力に関する青少年の意識啓発を図ること
- 性と生殖に関する権利と思春期の若者が直面するさまざまな暴力の分野に関する教師の研修と意識向上を奨励すること
- 社会教育的な事柄について、行政、教育に関わるすべての人々(家族を含む)、社会組織間の連携とキャンペーンを確立すること
- 日常的・体系的な暴力の中で、思春期の若者に代替案を提起する社会的・教育的政策を推進すること
- サポートやアドバイスを必要とする思春期の若者が、確実に権利その権利を行使できるよう、学校内に安全な空間を提供すること
- 性暴力、社会的暴力および／またはジェンダーに基づく暴力の予防と対処のためのプロトコルを設計し、確立すること
- これらのプロトコルに、暴力が移住の原因となり、その結果、彼らが教育システムから脱落してしまうかどうかを特定するための要素が組み込むこと
- 教育インフラ、特に思春期の若者の保護を促進する教育インフラの改善に十分な財政支援を行うこと
- 思春期の若者の意見やニーズを収集するための学生委員会を設置し、彼らの学校環境への参加を促すこと
- 思春期の若者を教育システムに復帰させる際に、より柔軟に対応できるプログラムを設計・実施すること。このプログラムでは、思春期の若者の進路に対する移住の影響を考慮し、早期中途退学を防ぐ方法として、年齢と学年に応じた教育支援を促進すること
- 教育施設で思春期の若者を対象とした包括的プログラムを設計・実施し、若年層が直面する移住の状況に関する情報を提供し、意識を向上させること
- 特に、妊娠や暴力など、思春期の若者が日常的に経験する中途退学の最も決定的な要因を考慮し、思春期の若者が学校にとどまるためのプログラムと行動計画 を推進、または実施すること

b) 安全面:

- 思春期の若者が公共空間で遭遇する可能性のある性暴力のリスクを最小限に抑えながら通学できるよう、「安全な経路」を確立し、または普及させること
- 大都市で確立された安全メカニズムを拡大・強化し、すべての地域、特に暴力発生率の高い地域に拡大すること
- 女の子と思春期の若者の教育へのアクセスを確保するため、安全メカニズムへの教育当局の参加を促進すること
- 移住する思春期の若者の権利を守るために、そのジェンダーや年齢を考慮した安全な手続きへの自治体の参加を促進すること
- 統合的かつ学際的な観点から、暴力防止のためのアプローチを推進し、他の公的機関との協力と協調を保証すること
- 全住民を対象とした、ジェンダーに基づく暴力に関する啓発キャンペーンを実施し、被害者が利用可能な資源やサービスに関する情報を提供すること

c) 移住面:

- 出身国への帰還という観点から、思春期の女の子と女性のコミュニティへの再統合のプロセスと社会的結束を促進するための公共政策を策定し、予算を配分すること
- 移住者に対するスティグマを防ぐことを奨励する計画と戦略を立案し、実施すること

市民社会組織へ

- 信頼できるデータと統計の収集を通じて、暴力的状況にある自国の思春期の女の子と女性の動機と脆弱性をより深くに説明し解決策を提示すること
- 信頼できるデータと統計の収集を通じて、国内および国外移住の原因である暴力をさらに深く観察し、各自治体による解決策を提供すること
- 暴力を理由に国内外への移動を余儀なくされている思春期の女の子と女性の保護、必要なケアと司法へのアクセスを確保するために、すべての国の政府機関と市民社会組織の間で共同の活動戦略を確立すること
- 保護施設で提供される啓発活動と研修を強化し、緊急時の教育や心理社会的支援のガイドラインを提供すること
- 移民の思春期の若者が保護施設に滞在している間、社会的・経済的権利を保護するために各国で利用できるサービスや機関、また、移動の中継地で利用できるその他の資源に関する情報を提供すること

UNFPAについて

UNFPAは、性と生殖に関する健康を取り扱う国連機関である。UNFPAの使命は、すべての妊娠が望まれ、すべての出産が安全で、すべてのユースの可能性が実現される世界を作ることだ。

UNFPAは、すべての人の生殖に関する権利の実現を求め、自発的な家族計画、妊産婦の健康管理、包括的な性教育など、あらゆる種類の性と生殖に関する保健サービスへのアクセスを支援している。

Save the Childrenについて

Save the Childrenは、すべての子どもが生存、保護、開発、参加の権利を保証される世界を構想している。その使命は、子どもたちの生活に即時かつ永続的な変化をもたらすために、世界の子どもの状況を大きく改善させることである。また、コミュニティの人びとが、自身の
ニーズに応じて、自身と子どもの生活の質を向上させ、発展させることができるよう支援している。

EDUCOについて-教育・協力財団- Educo

Educoは、25年超にわたり、子どもを支援し、子どもの権利、特に公平で質の高い教育を受ける権利を守るために活動している、開発・人道活動のための国際協力NGOである。ラテンアメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、アジアの14カ国で活動し、55万人以上の子どもと15万人以上の大人が参加する社会プロジェクトを通じて活動している。

チャイルドファンドアライアンスは、子どもの保護に焦点を当てたNGOの主要な国際連合の1つで、5大陸で活動している。

Protected Stepsプロジェクト

プラン・インターナショナルとSave the Childrenがグアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルの3カ国で18カ月間共同実施したこのプロジェクトは、中米の北三角地帯で暴力のスパイラル、強制移住、危険な移住の影響を受けた子どもや思春期の若者のノンフォーマル教育（NFE）と
正規教育システム（FE）へのアクセスに焦点を当て、脆弱な人びとのニーズを満たすことを目的としている。

本プロジェクトは、以下の3つの主要な要素に力を注いでいる。1）移動する子ども、思春期の若者、ユースの保護、2）移住家族の基本的ニーズを満たすための多目的現金給付、3）移住、帰国者、難民、避難民の子ども、青年、若者に適応した緊急時の教育、彼らの教育への権利を保証すること。これらの成果は、相互に関連し相乗効果を発揮して、移動する子どもたちの緊急ニーズに対応し、セクターを超えた紹介や教育サービスへのアクセスを通じて包括的な支援を提供するものである。

Protected Passageプロジェクト

プラン・インターナショナル、チャイルド・ファンド・インターナショナル、EDUCOが共同で実施するCamino Protegidoは、英語でProtected Passageと訳され、メキシコとグアテマラの移住者のためのサービスにおける主要なギャップに焦点を当て、3年間かけて実施される。このプログラムは、中米とメキシコの北方三角地帯で、移住と帰還をする子ども、思春期の若者、その家族の支援に重点を置いている。活動においてジェンダー・アプローチを用いながら、10～18歳の女の子のニーズを満たし、保護と権利を確保することに特に重点を置いている。

このプロジェクトは、中米・メキシコの移民危機の以下の2つの重要な要素に取り組むために設計された。(1)ユース自身や関連・確立した組織や機関が特定したニーズに基づき、人道的で思春期の女の子のニーズに重点を置いた支援を提供する、(2)待機、帰還、安全な復帰の過程で、子どもや思春期の若者、特に思春期の女の子を支援する。どちらのアプローチも、この地域の既存の移住プログラムの取り組みを基に、重複を避け、残されたギャップに対処し、連携と紹介システムを構築するように設計されている。

PAW

プラン・インターナショナルについて・謝辞

本レポートは、中央アメリカにおいて社会的暴力や強制移住の影響を受けた子どもや思春期の若者が、非正規教育や正規教育を安全かつ確実に受けられるようにするための「ECHO/Protected Steps Programme」の枠組みで、欧州連合から資金提供を受けて作成された。

本書の内容は、プラン・インターナショナル・スペインが単独で責任を負うものであり、欧州連合の見解を反映したものではない。

本レポートは、アンケート、インタビュー、グループなどを通じて、同意のもとに得られた第三者の意見に基づいて作成されている。

プラン・インターナショナルについて

女の子の力を、世界を変える力にする。
プラン・インターナショナルは、女の子が本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化をもたらし、世界が直面している課題の解決に取り組む国際NGOです。世界75カ国以上で活動。世界規模のネットワークと長年の経験に基づく豊富な知見で、弱い立場に置かれがちな女の子が尊重され、自分の人生を主体的に選択することができる世界の実現に取り組んでいます。

謝辞

このレポートの作成に関わったプラン・インターナショナルのすべてのオフィス、すべての現地パートナー、そして地域オフィス（ROAH）が2年超にわたって培ってきた努力、献身、作業に感謝する。

また、関係するパートナー団体（UNFPA、Save The Children、EDUCO）およびそのパートナーに感謝する。

IMALAB Social ACとメキシコ国立自治大学（UNAM）のNational Diversity Laboratoryの職員、そしてレポートの分析対象国のすべての研究パートナーの高い専門性と厳密な仕事に感謝する。

貴重な証言を提供してくれた思春期の人々、家族、主要参加者に感謝の意を示す。

この偉大なチームの総力なくして、このレポートを完成させることは不可欠だった。

調査の写真について

本レポートで使用されているすべての写真は、プラン・インターナショナルのプロジェクトに参加している女の子や思春期の若者を撮影したものであり、その使用は許可されている。使用が許可されている。これらの写真に写っている人物を、何らかの暴力や虐待の被害者であると推測されるものではない。

Plan International Spain
C/ Pantoja, 10
28002 Madrid, Spain

Tel: (+34) 91 524 12 22
Fax: (+34) 91 524 12 29

plan-international.es

facebook.com/Planinternational.es
twitter.com/PlanInt_ES
instagram.com/planint_es
linkedin.com/plan-espa-a
youtube.com/user/PlanEspana

Plan International- Regional office in Latin America and the Caribbean

plan-americas.org

facebook.com/planamericas
twitter.com/planamericas
instagram.com/planamericas

Published in March 2023.
Text and photographs: © Plan International unless otherwise indicated.
Cover photo: © Plan International

Plan International Spain Foundation. Registry of Foundations: 28/1186. C.I.F.: G-82895475. All rights reserved. No part of this publication may be published, reproduced, stored in a retrieval system or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying or otherwise, without the prior permission of Plan International Spain Foundation. Please email atencionaldonante@plan-international.org for more information.